

## 国立大学法人香川大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和5年3月15日  
国立大学法人香川大学  
学長選考・監察会議

国立大学法人香川大学学長選考・監察会議は、国立大学法人香川大学学長選考・監察会議規則第4条第4号に規定する学長の業務執行状況の確認について、下記のとおり確認を行った。

### 記

#### 1. 対象期間

令和3年10月1日から令和4年9月30日

#### 2. 確認経過

- (1) 学長選考・監察会議（令和4年11月30日開催）  
確認資料に基づく書面審査を行い、各委員からの意見を聴取した。
- (2) 学長選考・監察会議（令和5年1月25日開催）  
各委員からの意見に基づく協議及び学長からのヒアリングを行い、加えて監事からの意見を聴取した。
- (3) 学長選考・監察会議（令和5年3月15日開催）  
以下のとおり確認結果を策定した。

#### 3. 確認結果

学長選考・監察会議では、「寛 善行」学長の業務執行状況は、先進的かつ積極的な取り組みを着実に積み重ねて、多分野にわたる業績を上げていることを踏まえ、適正であることを確認した。

寛学長は、就任以来、「DRI教育」(※1)を中心とした人材育成及び学内施策の充実に注力しており、それが「創発科学研究科（修士課程）の開設」や「イノベーションデザイン研究所の開所」等を通して、人材育成やイノベーション創出に着実に結実してきたことが確認でき、学長のリーダーシップのもと、地域が求める香川大学としての役割を果たしている。

また、令和4年4月の創発科学研究科（修士課程）開設に続き、令和6年4月創発科学研究科（博士後期課程）開設に向けて、強力なリーダーシップを発揮するなど、学長選考時の所信に掲げる大学院改革を弛みなく推進している。

更に、コロナ禍の下、強力に推進しているDX施策については、取組の基本方針として、「デジタル ONE 戦略」(※2)を掲げ、教職学協働で進めている学内業務システムの内製開発は令和3年度中に35を超えるなど、「デジタル ONE オフィス」を緒に就ける上で、特筆すべきものであると評価できる。今後更に、令和5年4月には、学内の諸組織の情報化・DX推進の実働を担う人材を集約した「情報化推進統合拠点」を設置することにより、学内はもとより地域のDX推進への貢献など様々な波及効果が期待される。

ダイバーシティへの取組みについては、令和3年10月に、「D&I推進の基本方針」を策定し、全学的な推進体制の組織整備等を行うなど、多様性を尊重する環境づくりに注力してきたことや、管理職等におけるジェンダーバランスも好転の兆しが出ていることを確認することができ、引き続き、積極的な取組を推進していただきたい。

今後の業務執行においては、算学長の任期最終期間の集大成として、引き続き、適正かつ積極的な業務執行を行うことにより、教育・研究・社会サービス力をより高め、香川大学のブランド力が更に強化されることを期待している。

- (※1) イノベーションを創出する「デザイン思考 (D)」, レジリエンスやセキュリティに資する「リスクマネジメント (R)」, 専門分野を超えた数理情報基礎力「インフォマティクス (I)」の 3 つを統合した能力を育成すること
- (※2) 4つの分散キャンパスからなる香川大学において、「デジタル ONE キャンパス」、「デジタル ONE ラボ」、「デジタル ONE オフィス」を基本方針として進めること